

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中学生の部

令和五年一月度 入賞句一覧 投句数 二千三百七十句



持選

長町 誠司 選

赤とんぼ夕日に重なりぎらぎらと

大垣市

浅井 咲空（小六）

赤とんぼは、とんぼの種類のうち腹部が赤や橙、黄などの色をしたものの俗称です。歳時記には秋の部で「とんぼ」とは別に掲載されているものもあります。そんな赤とんぼが夕日に重なると、翅だけが光と相まって強調されます。その光景を「ぎらぎら」という自分の心に浮かんだ言葉で表現したことが成功につながりました。赤色は暖色系のなかでも興奮感を与える色です。下五の「ぎらぎら」との表現ともぴたり合いますね。どんな小さな虫でも見逃さないとんぼの複眼のように、作者も自然観察の達人です。

雪だるま溶けてなくなり愛される

加茂郡川辺町

大東 由依（中三）

雪だるまは、時間の経過でやがて溶けて無くなる存在。だからこそ愛されるのでしよう。大きなさや、目鼻に使われる材料はもちろんのこと、誰とどのようにして作ったかなど、いつまでも心に残っています。多感な中学生の感性で、儂く消えゆくものに対する思いを、俳句で表現してくれました。

おでんはねやさいのおふるあつたかそ

大垣市

まき野 侑せい（小二）

おでんを擬人化して、うまく俳句を作ってくれました。おでんの具になる野菜といつたら何を思い浮かべるでしょうか。大根やにんじん、ごぼう巻きのごぼうや里芋などは定番ですが、作者はどんな野菜が好きなのでしようね。得意の擬人化で、「おじいちゃんやんは人生と出汁がよく染みた大根みたい」などと、家族をおでんの具に例えてみるのも面白いかもしれません。

秀逸

秋の空イエーイと声が百メートル

大垣市

川合 希佳（小五）

半分は未来投資のお年玉

加茂郡川辺町

馬場 翔（中二）

秋の空西ばかり向く風見鶏

大垣市

安藤 大翔（中二）

木漏れ日と溢れ出てくる冬の水

大垣市

松川 葵音（中二）

大空を引伸ばしたる翺雲

大垣市

小嶋 蒼矢（中二）

がんばって木にしがみつく草紅葉

大垣市

大塚 天響（中二）

鳥居の上見えるスイミー翺雲

大垣市

岩下 愛奈（中三）

肌寒いゴミの沈んだ川を見る

大垣市

坂下 陸仁（中三）

金木犀水に浮かんで星描く

大垣市

大利 心乃香（中三）

おしよすがつはしって行ったはかまいり

大垣市

田端 凌征（小二）

入選

だんせきでうんどうかいをおうえんだ

大垣市

徳田 涼成(小五)

最後までがんばってきた運動会

大垣市

岡田 彩愛(小五)

百メートル走るとでてくる秋の風

大垣市

花木 夢杏(小五)

初雪が私を動かす第一歩

加茂郡川辺町

佐伯 衣織里(中二)

雪ダルマさびしそうにこつち見る

加茂郡川辺町

前島 都和(中三)

北風が落ち葉を誘う「遊ぼう」と

加茂郡川辺町

小田 憩(中二)

やけに青い空も映さぬ冬の海

加茂郡川辺町

安藤 琴美(中二)

サンタさん小五で突然いなくなる

加茂郡川辺町

松山 篤志(中三)

さつまいもあつたかスूपしみわたる

大垣市

大場 アユミ(小六)

松の木の葉っぱを抜ける秋の日よ

大垣市

生駒 拓海(中二)

自噴水散らばる光秋の朝

大垣市

山本 唯緒(中二)

秋の川波たなびかせるヌートリア

大垣市

大橋 愛音(中二)

秋涼し静かな場所で私語をする

大垣市

こあし ゆうや(中二)

秋の川波につられて踊る鯉

大垣市

柳 明空(中二)

静かさを思い出させる落ち葉かな

大垣市

伊藤 悠真(中二)

すべりだい小さい頃の秋の虹

大垣市

小寺 航平(中二)

先人の想いを紡ぐ秋の川

大垣市

斉藤 鴻太(中二)

城紅葉舎監は何をしているのか

大垣市

松川 蓮(中三)

枝打ちで松の梵天秋穿つ

大垣市

松澤 凧(中三)

流れ星時間に押されもやい船

大垣市

吉田 吏玖(中三)

選者吟

まつすぐな線はつまらぬ初硯

せいじ

小中学生の部

